

札幌部会報告

2025 年「空港と教育のコラボ事業」に関する「勉強会」の開催

開催日時 令和 7 (2025) 年 11 月 8 日 (土) 14:00～17:20 受付開始 13:30～
会 場 キャリアバンク・セミナールーム (札幌市中央区北 5 条西 5-7 sapporo55 ビル 5F)
主 催 経済教育ネットワーク 北海道エアポート株式会社
参加者 31 名

[概要報告]

昨年度から、加藤一誠氏(慶應義塾大学)の事業企画により、札幌部会では北海道エアポート株式会社との産学連携事業として「空港と教育のコラボ事業」を立ち上げ、丘珠空港、新千歳空港の空港施設視察見学並びにシンポジウムを開催してきた。その成果を検証し、具体的な「教材開発」「授業づくり」「評価問題作成」そして、キャリア教育につなげる取組についての実践報告、意見交流の場として、「勉強会」を開催した。

今回の「勉強会」は、会場等の都合から、オンライン配信はせずに「対面」のみの開催となった。北海道札幌市での開催であったが、貴重な休日を使って、京都、千葉、東京からの参加者があり、札幌部会への心強いご支援に、道内の会員一同感謝している。

「勉強会」の内容構成は、時間的にかなり過密となったが、次のような三部構成とした。

○ 第一部 (14:00～15:30) 事業成果の報告・研究協議

- 1 [現況報告] 航空業界の激変と空港の将来 慶應義塾大学 加藤 一誠
「国内線の経営環境の厳しさと空港に及ぼす影響」
- 2 教材報告及び研究討議
 - 1) 教材報告 (1) 「授業づくり」実践事例報告 北海道札幌南高等学校 下川 欣哉
 - 2) 教材報告 (2) 「評価問題」作成事例報告 北翔大学 川瀬 雅之
 - 3) 教材報告についての研究討論 予定討論者からのコメントと報告者からのリプライ
予定討論者 東京都立農業高等学校 埴 枝里子
東京都立蒲田高等学校 浅川 貴広
東京都立西高等学校 佐々木啓真

○ 第二部 (15:40～16:50) 研究協議 「空港と教育」の更なる教材化に向けて

協議の柱

- ・「空港」を教材化する上での「見方・考え方(視点)」
- ・「空港」を身近なものとする「授業づくり」「教材作成」等について
- ・「学びの場」「働く場」として、生徒に学ばせたい「空港」の実際

予定提言者 札幌光星高等学校 中村 大輔
北海道高等学校遠隔授業配信センター 佐藤 豊記
市立札幌新川高等学校 佐久間 直樹
札幌市立平岡中学校 小林 弘明

第二部 司会進行: 北翔大学 川瀬 雅之

○ 第三部 (17:00～17:20) 今後の事業展開に向けて

- 1 北海道エアポートから 武山 直弘

(2 総括「勉強会」の成果 慶應義塾大学 加藤 一誠 ※持ち時間を他の企画に融通)
教育懇談会 「勉強会」終了後、会場を移して、さらに意見交流を深める「教育懇談会」を開催した。

[内容報告]

○ 第一部 (14:00～15:30) 事業成果の報告・研究協議

報告者並びに予定討論者から、具体的な事例並びに実践成果の報告があり、参加者からの質問・意見等を交えた研究協議となった。

1 [現況報告] 航空業界の激変と空港の将来 慶應義塾大学 加藤 一誠

「国内線の経営環境の厳しさと空港に及ぼす影響」

⇒「現況報告」として、国内線の経営環境の厳しさが語られた。航空会社は機材を小型化して費用を節約し、搭乗率も上昇しているが、収益は減少している。今後、路線や便数の見直しが予想されることも付言された。また、インバウンド誘致の仕組みやオーバーツーリズムへの対応策まで、インフラと立地地域との視点も提示された。参加の経済学部所属の大学生（北海道大学）から「日本における国内線の経営環境の厳しさを学び、航空会社の経営戦略と旅客の動きについて考える機会となった」との率直な感想もあった。後日談として当該の学生から、「後日、航空会社主催のイベントに参加した際にも、その内容について理解を深める上で、非常に参考になった」との感謝の言葉があった。

2 教材報告及び研究討議

1) 教材報告 (1) 「授業づくり」実践事例報告 北海道札幌南高等学校 下川 欣哉

⇒地理探究「交通と経済」の「地理から見る交通と経済」における「授業づくり」の実践報告があった。授業の目的に「社会を創るインフラストラクチャーを理解する」をあげ、「公共」とも関連付けながら、「自ら問いを立て、情報を収集し、分析・要約し、発表する力の養成」をめざす授業実践が報告された。「カルトグラム」で時間距離を説明し考察させながら、鉄道・海上・トラック・航空の特徴を学び、生徒が個別に、関心のある交通について情報を収集して、Google ドキュメントにおいてレジュメにまとめ、5分間のプレゼンテーションをグループ内、そして代表が全体で発表するという一連の学習活動が報告された。成果・課題として、課題解決に向けて「自分は、どうしたらよいのか?」という更なる掘下げに向けた働きかけについて、示された。

2) 教材報告 (2) 「評価問題」作成事例報告 北翔大学 川瀬 雅之

⇒「空港」を題材とする「評価問題」の作成について、具体的な問題の形ではないが、作問に向けての考え方と問題の素材やテーマについて報告された。「地理総合」などでは「交通と経済」の単元等での取扱いもあるが、「公共」や「政治・経済」の教科書で取り上げられている「空港」は、例えば大阪空港公害訴訟など限定的である。昨年からの「空港と教育のコラボ事業」の成果を活かす形で、「教材」「授業」の延長線上にある「評価問題」でも「空港」を題材とすることが出来るのではないか、という問題意識からの報告であった。探究学習に仕立てた「問題の場面設定」を生徒の会話文にまとめ、「空港」に関連する訴訟、立地、関連産業、雇用（働く場）、地域との関わり（防災等）など、問題作成に向けた素材の選択とテーマの設定について報告された。

3) 教材報告についての研究討論 予定討論者からのコメントと報告者からのリプライ

予定討論者	東京都立農業高等学校	塙 枝里子
	東京都立蒲田高等学校	浅川 貴広
	東京都立西高等学校	佐々木啓真

⇒予定討論者から、2名の教材報告についての詳細なコメントと、ゲーム理論を取り入れた事例や関連付けた「問い」の設定についての例示、空港利用者ランキング（日経新聞記事）などの資料を用いた作問例など具体的な「評価問題」の例示などが行なわれた。いずれも、具体的な例示が行なわれた。塙氏と浅川氏は、昨年開催のシンポジウムにおいて、「授業づくり」に関する報告を担当され、「空港と教育のコラボ事業」の成果を進化させる視点から、今回の「勉強会」での発言や提示された事例なども具体的で、示唆に富むものであった。佐々木氏も「鉄道マニア」である自らの視点から、鉄道と航空を比較しながら空港について述べられ、人流と物流についてさまざまな視点からの「気づき」を促すためのポイントとして、「比較」の有効性を指摘された。

参加者からの発言として、弁護士として法教育の分野で、教材開発、授業づくりに熱心に取り組まれている阿部太陽氏（札幌弁護士会）から、司法や法律の視点から大阪空港公害訴訟などをどのように理解すべきなのかの指摘もあり、経済、教育に加えて議論の広がりや深掘りがあった。

○ 第二部（15:40～16:50） 研究協議 「空港と教育」の更なる教材化に向けて

4名の報告者からそれぞれの実践についての報告があり、参加者からも所属する校種や担当科目等、それぞれの立場からの質問や感想・意見が時間を延長して述べられ、意見交流が行なわれた。

協議の柱

- ・「空港」を教材化する上での「見方・考え方（視点）」
- ・「空港」を身近なものとする「授業づくり」「教材作成」等について
- ・「学びの場」「働く場」として、生徒に学ばせたい「空港」の実際

予定提言者 札幌光星高等学校 中村 大輔
北海道高等学校遠隔授業配信センター 佐藤 豊記
市立札幌新川高等学校 佐久間 直樹
札幌市立平岡中学校 小林 弘明

第二部 司会進行：北翔大学 川瀬 雅之

⇒予定提言者から、上記の協議の柱をふまえながら、それぞれの実践について報告があった。

中村氏からは、「航空人材育成のための取り組み」と題して、勤務校での幅広いキャリア教育の実践として、日本航空大学校北海道との連携事業について、詳らかな報告があった。「飛行機ファン」である自らの興味・関心を教育実践に活かし、生徒に働きかける中で、「チーム」「ホスピタリティ」「時間」「安全・安心」など航空業界から学ぶことを取り上げ、教育実践が人材育成に結びつき成果を上げている取組が報告された。継続的に積み重ねられた取組についての報告であった。

佐藤氏からは、北海道の広域性を背景として、勤務校における全国的にも先進的な遠隔授業配信の実践について説明されると共に、地域と地域を結ぶことの意義と必要性について、また空港を支える人の姿について、落ち着いた口調ながら熱く語られた。自らの経験なども紹介しながら、働く場としての空港についての理解も促される報告であった。

佐久間氏からは、地理の専門家としての視点から、「空港」を教材化する際のさまざまな「切り込み口」が具体的に提示された。例えば、航空・空港の実際を理解するための情報データとして、取扱い貨物等を重量ベースで比較する場合と金額ベースで比較する場合の違いや、一般には公表されていないデータについて、問題意識を持って情報を検索し探し当てて「見える化（グラフ化）」する具体的な手法なども例示された。「勉強会」として、教科科目の枠を超えた意見交流の有効性や意義が示された。

小林氏からは、そもそも空港との接点が限られている中学校における取組について、「空港を知ってい

る?」という問いかけから始まり、どこの空港を利用したことがあるか、将来空港関連の仕事に就いてみたいかなど、生徒に対して実施したアンケート結果の分析と自らの空港に関連した経験をおりませながらの報告があった。勤務校が札幌市内の中学校であり、丘珠空港についての関心事項、注目点などの指摘も報告された。

4名の提言者の報告のあと、今回の「勉強会」では参加者全員が少なくとも一回は発言することを目標に掲げ、感想や意見、各自の気付きの表明など、限られた時間内での協議を進めた。結果として、予定の時間を過ぎる形となり、第三部で総括をお願いしていた加藤氏の配慮から、時間を延長して参加者全員の発言をえた。第一部の内容にも触れながら、教科指導を通じたキャリア教育の在り方、交通インフラと日本の産業の在り方についてなど、中学校、高校という校種も超えた多様な発言があった。

参加者の中で、大学の研究者、特に長く空港・航空の研究・教育をされていた田村享氏（室蘭工業大学）からは、後日、「勉強会における話題は、40年間空港・航空の研究・教育に携わってきた私にとって初めてのことが多く、大変、勉強になりました。経済だけでなく、経営、地理、法律にも及ぶ広範な分野をカバーする議論に、新鮮さと共に戸惑いすら感じました。加えて、参加者の熱心さにも、感動しました。また、声を掛けていただけると幸いです。」とのメールもいただいた。

○ 第三部（17:00～17:20） 今後の事業展開に向けて

第一部、第二部での報告・議論等をふまえながら、主催の北海道エアポート（HAP）として、またその担当者としての感想と要望についての報告があった。

1 北海道エアポートから 武山 直弘

⇒「空港教育プログラム」の取組について、HAPの社長交代等も経ながら、事業については一定の評価がなされ、継続の方向性は確認されているものの、今後の事業展開については、その成果の検証と教育現場からの具体的なニーズの集約が求められていることが示された。当面の事業としては、個別の要望等に対応しつつ、「空港と教育のコラボ事業」として、現場からのさまざまなニーズを集約して、今後の方向性を定めていく必要があり、今回の「勉強会」の成果なども参考にしていく。報告後、参加者から、HAPの本業である空港経営の現状についての質問や、今後の「空港と教育のコラボ事業」について、その事業としての取組への期待について、意見表明などがあった。

「勉強会」終了後の教育懇談会にも、23名の参加があり、「勉強会」についての振り返りと共に、空港を舞台とする大学と地域が連携する伝統芸能披露のイベント企画の提案など、豊富な話題が出された。

今回の「勉強会」は、「対面」のみの実施であり、実施内容を詳らかに再現・報告するものとしては不十分ではあるが、以上をもって、実施概要の報告とする。（文責：川瀬 雅之）